

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-501172(P2005-501172A)

【公表日】平成17年1月13日(2005.1.13)

【年通号数】公開・登録公報2005-002

【出願番号】特願2003-525084(P2003-525084)

【国際特許分類】

C 0 8 L 77/00 (2006.01)

C 0 8 L 15/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 77/00

C 0 8 L 15/00

【手続補正書】

【提出日】平成17年9月2日(2005.9.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリアミドを水素添加カルボキシル化ニトリルゴムと20 を越える温度でブレンドすることを含んでなる、コンジュゲートを形成させるための方法。

【請求項2】

混合トルクが観察され、この混合トルクが増加しなくなったときに、硬化系をブレンドに添加する請求項1に記載の方法。

【請求項3】

硬化系が、ペルオキシド硬化系、ジアミン硬化系、フェノール樹脂硬化系、またはこれらの混合物からなる群から選択される請求項2に記載の方法。

【請求項4】

過酸化亜鉛の存在下である請求項3に記載の方法。

【請求項5】

ポリアミドおよび水素添加カルボキシル化ニトリルゴムからなるコンジュゲート。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

1つの態様において、本発明は、ポリアミドを水素添加カルボキシル化ニトリルゴムと20 を越える温度でブレンドすることを含んでなる、コンジュゲートを形成させるための方法を提供するものである。

別の態様において、本発明は、ポリアミドおよび水素添加カルボキシル化ニトリルゴムからなるコンジュゲートまたは複合材料を提供するものである。

本発明の対象およびその好ましい態様を列挙すれば、以下の通りである：

1. ポリアミドを水素添加カルボキシル化ニトリルゴムと20 を越える温度でブレンドすることを含んでなる、コンジュゲートを形成させるための方法；

2. ポリアミドがポリアミド 6 である上記 1 に記載の方法；

3. 水素添加カルボキシル化ニトリルゴムが、6 % またはそれ未満の残留炭素-炭素二重結合含量を有する、アクリロニトリル、ブタジエンおよびアクリル酸のコポリマーである上記 1 または 2 に記載の方法；

4. 温度が 150 ~ 300 の範囲内である上記 1 ~ 3 のいずれかに記載の方法；

5. 50 ~ 95 % の範囲内の充填率で混合するための手段においてブレンドを行う上記 1 ~ 4 のいずれかに記載の方法；

6. ポリアミドを溶融し、水素添加カルボキシル化ニトリルゴムを、溶融ポリアミドに攪拌しながらどのような硬化系をも存在させずに添加することを含んでなる上記 1 ~ 5 のいずれかに記載の方法；

7. 混合トルクが観察され、この混合トルクが増加しなくなったときに、硬化系をブレンドに添加する上記 6 に記載の方法；

8. ポリアミドを溶融し、水素添加カルボキシル化ニトリルゴムおよび硬化系を、溶融ポリアミドに添加することを含んでなる上記 1 ~ 5 のいずれかに記載の方法；

9. 硬化系が、ペルオキシド硬化系、ジアミン硬化系、フェノール樹脂硬化系、またはこれらの混合物からなる群から選択される上記 7 または 8 に記載の方法；

10. 過酸化亜鉛の存在下である上記 9 に記載の方法；

11. コンジュゲートを、成形または押出操作において使用するのに適するペレットに形成する工程を含んでなる上記 1 ~ 10 のいずれかに記載の方法；

12. ポリアミドおよび水素添加カルボキシル化ニトリルゴムからなるコンジュゲート；

13. 硬化剤を用いて形成された上記 12 に記載のコンジュゲート；

14. 水素添加ニトリルゴム、エチレン酢酸ビニルゴム、エチレンアクリレートポリマーまたはこれらの混合物をさらに含んでなる上記 12 または 13 に記載のコンジュゲート；

15. ペレットの形態にある、上記 12 ~ 14 のいずれかに記載のコンジュゲート；

16. 成形品または押出品の形態にある、上記 12 ~ 15 のいずれかに記載のコンジュゲート。